

2014 推・帰・社

受 験 番 号		見 本	
------------	--	--------	--

医学部保健学科

小論文Ⅱ問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この冊子のページ数は4ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合は申し出てください。
3. 問題冊子の余白は下書きに使用してもかまいません。
4. 解答は所定の答案用紙に記入してください。
5. 答案用紙は持ち帰らないでください。
6. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

1 次の文章を読んで、問1、2に答えなさい。

日本人の“活字離れ”が言われて久しい。また“テレビ離れ”も進んでいるといわれる。それに対してパソコン、ケータイ(携帯電話)、インターネット、電子メールなど、新たな情報機器や伝達手段の普及が目覚ましい。中でも多機能情報端末「スマートフォン」の普及が急速に進んでいる。それならば、やがて新聞、テレビは姿を消して、インターネットや新たな電子媒体がそれにとって代わるのかということ、そう単純な話でもなさそうである。

文化庁の国語に関する世論調査(2008年度)によると、「ふだん、電子メールを使っていますか」との問いに、30歳代は96%が使っていると答え、20代も93%、16歳から19歳は実に99%と、軒並み九割が使っていると答えている。40代でも86%である。ここでいう電子メールは携帯電話でのメールがほとんどであるから、もはやケータイとメールは生活必需品である。

次の時代を担う世代がこうした情報機器を日常使っているとなると、日本語そのものに変化が生じてくることは当然の成り行きである。かつて、テレビの大衆化が進んだことでテレビが四六時中しゃべり続ける饒舌なメディアと化したように、情報機器の普及で日本語がどう変わっていくのかは見過ごせない問題である。

同じ文化庁の調査で「パソコンや携帯電話などの情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方は影響を受けると思いませんか」という問いかけが行われている。これには回答者の実に80%が「影響を受けると思う」と答えている。ではどんな影響か、という問いに対する答えはつぎの通りである(選択肢のなかから3つまで選択)。

「漢字が書けなくなる」60%、「ことばの意味やニュアンスが変わる」42%、「新しい言葉や言葉遣いが増える」33%、「手紙などの伝統的な書き方が失われる」29%、「省略した表現が増える」26%、「?や!などの記号や絵文字の使用が増える」17%、という順である。

この調査結果でみる限り、情報機器を使っているうちに日本語がやせ細っていくのではないかという懸念が生じる。「新しい言葉が増える」といっても、特定の相手との通信の中でのことであるから、仲間うちのことばが変化するだけで日本語全体が豊かになるというわけではない。ケータイやメールは主に個人と個人、それも親しい相手とのやりとりに使われる、いわばプライベートなコミュニケーション手段である。これらの使用でことばが変化するとしても、それは、主に私的なおしゃべりの世界の変化である。

それに対して、テレビ、新聞は、パブリックな伝達手段である。とくに電波は公共のものであり不特定多数を対象にした伝達手段であるから“私”ではなく“公”に属する。そのテレビ、新聞のことばがやせ細る方向で変化することになったら、それは深刻な問題である。テレビ、新聞の関係者はそうさせない責任を負っている。ことに四六時中膨大なボリュームのことばを吐き出しているテレビの責任は大きい。

(出典：加藤昌男、テレビの日本語、p.211-213、岩波新書、2012、一部改変)

問 1 この文章の要旨を 150 字以内にまとめ、解答欄 - 1 に記しなさい。

問 2 新たな情報機器や伝達手段の普及で日本語はどう変わっていくと思うか。あなたの考えを 150 字以内にまとめ、解答欄 - 2 に記しなさい。

2 次のインタビュー記事を読んで、問 1, 2 に答えなさい。

答え手：安田喜憲（国際日本文化研究センター）

聞き手：蒲敏哉（中日新聞東京社会部）

（蒲）これまで気候変動で滅びた文明はあったか。

（安田）古代メソポタミア文明も急激な寒冷化でチグリス、ユーフラテス川流域が乾燥化し、塩害で穀物が採れなくなった。ほとんどの文明の盛衰は気候変動が大きな影響を与えてきたと言っている。

しかし、この気候変動は、もっと大きくいえば十万年周期で繰り返される氷期、間氷期もそうだとと言える。太陽の黒点や地球の軌道など、人類の力が遠く及ばないところでそれは起きてきた。

（蒲）人類はこうした気候変動にどう「適応」してきたのか。

（安田）これまでの人類の気候への適応策は寒さとの闘いだった。森林を切って燃料とし、英国やドイツでは森林のほとんどが牧草地となっていった。しかし、羊毛で衣服をつくった結果、ノミが大量に発生し、ペストの世界的流行にもつながった。

森に代わる物として英国では石炭が使われるようになった。産業革命こそ過去最大の「適応」策であり、地球温暖化につながる“禁断の木の実”だったともいえる。

（蒲）全地球的に生命が脅かされた時期はあったのか。

（安田）約 7 億年前には地球大凍結があり、北極から南極まで氷に覆われた。2 億 5 千万年前には海洋生物が絶滅し、これが今の石油の元になっている。6500 万年前は、恐竜の全盛期だったが、メキシコ湾に大隕石（いんせき）が落ちて急速に寒冷化し、絶滅に至ったとされる。地球の歴史で生物は常に危機にさらされてきた。たとえ人類が減びても、なんらかの生命が生き延びていくだろう。

（蒲）環境考古学から見て現代はどういう時代か。

（安田）人類が誕生してから地表の二酸化炭素(CO₂)濃度が 300 ppm を超えたことはなかった。今は 380 ppm ある。人類がこれまで経験したことのない濃度だ。これが化石燃料の消費が原因で発生しているという点で、地球の生物が気候変動に直接関与する初めてのケースといえる。

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、最悪のシナリオとして今世紀末に 6.4 度の気温上昇を予測している。この時、CO₂濃度は 1000 ppm を超える。これは恐竜の時代の 1200 ppm とほぼ同じ濃度。人類は、この濃度に適応できず、生き残れないだろう。人類は寒さとは闘ってきたが“暑さ”との闘いは経験がない。

（蒲）人類が生き続けるため、私たち現代文明に求められているものは。

（安田）今世紀半ばには数十億人が水不足の危機に見舞われるとされている。危機は目前にきている。

ライフスタイルを変えて、新しい文明をつくるしか生き残る道はない。

化石燃料の使用を最低限に抑えるということ。プラスチックなど石油でしかまかなえないものもあるが、太陽光、風力など自然エネルギーの活用にシフトしなければならない。

日本は水田や生物多様性を重視する農耕民族として極めて評価できるライフスタイルを既に確立してきた。人類は地球上で、ほかの生き物たちの生命維持にも責任を負うほど存在は大きい。生命文明の時代をつくっていくことが重要だ。

(出典: 「文明」再考の時, 中日新聞, 2008年1月1日, 一部改変)

[この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。]

問1 安田氏は、これまでの人類の文明と環境変化との関係をどの様にとらえているか。200字以内にまとめ、解答欄 - 1 に記しなさい。

問2 安田氏は、人類は今後どのような文明を築く必要があると考えているか。150字以内にまとめ、解答欄 - 2 に記しなさい。